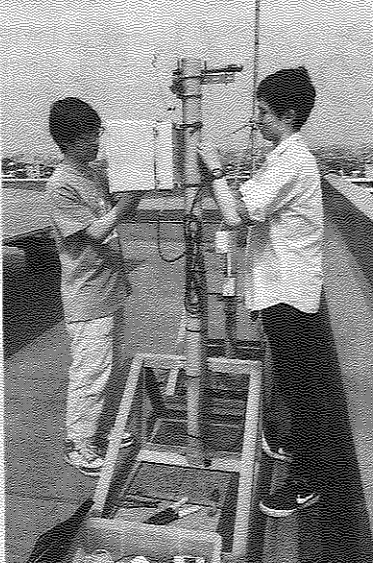


湘南工科大学電気電子工学科の成田知巳教授の研究室は、落雷位置標定システム(LLS)を全国12カ所に設置し、3月末から運用を開始した。これにより日本全域はもとより、アジア・オセアニア地域の落雷位置情報がウェブで確認できるようになった。成田教授は「研究成果を実用化することで安全・安心な社会を実現し、将来の快適な暮らし創造につなげたい」と意気込む。

アジア圏で落雷位置標定

成田教授は、ドイツの局を用いた落雷位置標定システムを世界規模で行うことを目的にボランティアで運用している。商用目的のプロジェクト「Blitz zortung.org」での利用はできないが、(ブリッツ)の受信局を誰もが世界中の落雷位置の時間・緯度・経度など詳細情報を閲覧できる導入。東京大学をはじめ、全国の国立大学などを先導して共同研究を進めていた。

電力会社や気象協会が導入し、自ら組み立てて設置される落雷地点など、電力会社など使用されているシステムと比べ、何千分の1以下のコストという。これまで、電子部品をばんだ付けしなければならず、組み立てに時間と技術を要したが、開発元の改良により半完成品となったことで設置が容易になった。



①LLSを設置する様子。誰もが自由に落雷地点を確認できる(写真は湘南工科大学) ②湘南工科大学の屋上に設置されているLLS

全国12カ所にシステム設置

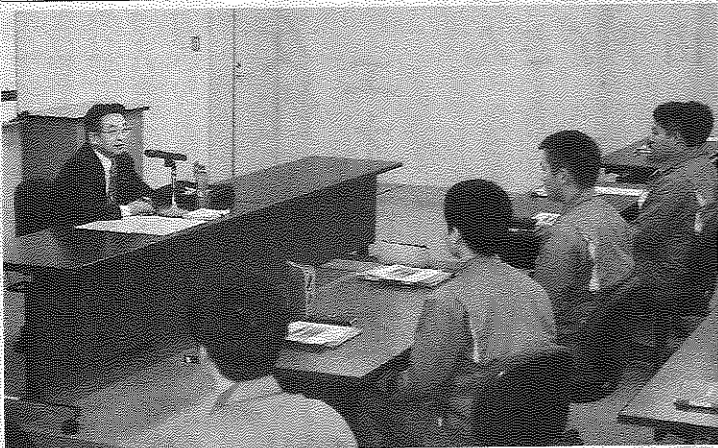
欧州や米国、オセアニア地域で普及が進み、世界で約1500台の受信局が設置されている(2017年1月時点)。一方、アジア圏で設置されたのは昨年7月時点で日本、香港、タイの3カ国のみ。国内では湘南工科大学と東京都東村山市の2カ所だけだった。装置は電磁波が各受信局に到達する時間差を用いて落雷位置を標定する手法による。そのため、3つ以上の受信局があればより正確な位置を標定できることから、「16年度中に国内10カ所に受信局を設置したい」(成田教授)との目標を掲げている。

このほど、北海道から沖縄まで全国12カ所に装置を設置。目標を達成した。また、アジア圏における設置地点がシンガポール、マレーシア、タイ、インドネシア、フィリピン、インド、中国、韓国、台湾、香港、タイの3カ国のみ。国内では湘南工科大学と東京都東村山市の2カ所だけだった。装置は電磁波が各受信局に到達する時間差を用いて落雷位置を標定する手法による。そのため、3つ以上の受信局があればより正確な位置を標定できることから、「16年度中に国内10カ所に受信局を設置したい」(成田教授)との目標を掲げている。

人間関係の大切さ強調

四電工 新入社員に講話で助言

四電工の家高順一社長は12日、4月に入社し導入教育を受けている新入社員を前に講話した。生い立ちや会社生活を振り返り、そこで感じたことや考えたことを率直に語った。新入社員の間にも答え、人間関係や仕事に向かう姿勢などについてアドバイスした。家高社長は「何か一言でも皆さんの心に残れば、きょうこうして話をしに来た価値がある」と述べ、予定時間をオーバーして熱心に新入社員と対話を行った。



新入社員を前に自身の経歴やそこから得られた教訓について話す家高社長

工事・保安

での経歴について話した。大学時代に父を失った。世間の冷たさや人の温かみに触れた経験や、会社生活では一流大学出身の同期に負けまいと奮起した経験を明かし、「マイナス思考ではよくないことにならない。諦めたり、自分を卑下したりしてはダメ」と思いを伝えた。また、特に人間関係の大切さを強調し、「本音で言い合える仲間を大事にしてほしい」と一同に呼び掛けた。

新入社員からは事前に書面で質問を募ったほか、口頭での質問も受け付けた。人間関係のつくり方やお勤めの本、新入社員時代の目標や習慣など様々な質問が寄せられ、それらに丁寧に回答していった。

「社長や役員になるにはどうしたらいいか」という質問には「一つの決まった道筋があるわけではなく、それぞれが自分の持ち味を生かして努力を重ねた結果」と回答。だが、狙いすぎるといやな人間になってしまう」と考えを述べた。

今後の事業の展望についても新入社員に関心が高くなり、様々な質問が上がった。家高社長は昨年発した「中期経営指針2020」やその実現に向けた組織整備などを説明し、そこに込めた思いを語った。

新事務所で業務開始

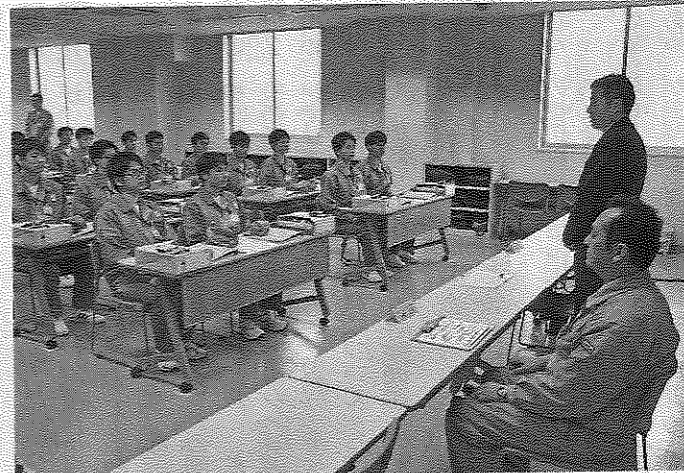
新人研修実施に向け会議

送電線建設協力会(会長鈴木駿司・中央電工)は、建設を進めてきた新事務所が完成し、10日から業務を本格的に開始した。役員が参集し、開所後初の会議も開催した。恒例の新人研修の実施に向け、受け持ちの確認などを行った。

静岡市清水区内の従来の事務所は、清水駅や送電線工事従事者にゆかりの深い鉄舟寺が比較的近くにあったが、老朽化が進み、移転を余儀なくされる状況にあった。そこで、新たな事務所への移転などを検討。その結果、越し作業なども一段落し、10日正式に開所した。新事務所の間取りは、

訓練積み早くプロに

新人研修開講式で激励



新入社員に激励の言葉を掛ける山田部長

配電部門へ配属される34人が出席した。これまでの約1週間は他の部門と合同で研修を受けていたが、12日からは配電担当としての専門的な研修がスタートする。新入社員は訓練の本格化を前に、緊張した面持ちで式典に臨んでいた。

あいさつした山田部長は「お客さまサービス本部配電部長は「配電部門は期待に応えることが仕事と思っている。訓練を通じて早く一人前の配電マンとなり、先輩たちと一緒に仕事ができるよう頑張ってもらいたい」と激励した。

健康と社運隆盛願う

17年度安全祈願祭を開催

きんでんは12日、大阪府寝屋川市の成田山大阪別院明王院で、2017

年度安全祈願祭を開催した。生駒昌夫会長、前田幸一社長をはじめ役員・幹部、支店・支社長、労組の代表ら40人が参列して、今年度の無事故・無災害と社員の健康を祈願した。参列者は明王院に到着した後、記念撮影などを終え、本堂へ移動。本尊の不動明王の前でたかれる護摩木の火に、今後一年の社運隆盛と安全を願った。

同社は17年度の安全衛生管理基本計画で、事業の根幹は安全と衛生であるとの認識の下、活動に取り組む方針を明示。安全に関わる重点推進事項



開所した新事務所で会議を開く役員



新事務所の間取りは、